キャラクター名
塚原刀弥(つかはら　とうや)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ モルフェウス	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	図書館司書
オプショナル	オルクス	年齢	18	性別	男
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	30 %
出自	素体	経験	恐怖	邂逅	強敵

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0	7		11
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	43
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	18	2	射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
決闘者の剣	白兵	14r+20	3	11		経15点
斬	白兵	20r+20		11		侵4
壱ノ魔剣【烈華】	白兵	20r+20		11		バリクラ入りコンボ　侵8
弐ノ魔剣【不知火】	白兵	20r+20				ドッジ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
UGN戦闘服 II		15			エフェクトD+2、経30

合計装甲：	15	合計回避：	0

所持品	
メモリー【実験】	
メモリー【決意】	
メモリー【強敵】	
リマインドソウル	
思い出の写真	
学園帰り	
オーヴァードシュート	
ディシプリンズアクト	
レネゲイドトレーニング	
ダインスレイフプログラム	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
藤宮五樹	P　執着	N 敵愾心		
掴み取る未来●	P	N		
真起源種●	P	N		
今までの自分●	P	N		
遠山太郎●	P	N		
アイリス●	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ:モル	3	3	メジャ					
効果：								
カスタマイズ	2	2						
効果：	D+Lv							
バリアクラッカー	2	4					80	
効果：	SLｖ							
エンハンスアクション	3	4						
効果：	D+【Lv×2】、S1							
剣精の手	2	2	オート					
効果：	↑に妖精の手。SLv+1							
妖精の手	2	4						
効果：	SLｖ							
妖精の輪	1	4					R	
効果：	↑もっかい使用。SLｖ							
妄想の写し身	2	5		視界	単体		120	
効果：	自身の攻撃か被攻撃のDを1か10、SLｖ							
現実改変	2	6					120	
効果：	達±20。HP-20。SLv							
サポートデバイス	4	6	セット				80	
効果：	D+【Lv×2】、S3							
リフレックス	3	2	リア					
効果：								
ゲットダウン	1	2				白兵		
効果：								
	★							
効果：								

かつてとある実験によって生み出された素体の一人。
凄惨を極めたその実験は数多の失敗作を生み出した。
結果を残さなければ廃棄される死と隣り合わせの日常を生まれたときから彼は送っていた。
努力もむなしく彼もまた失敗作として処理されることとなるが、寸前のところでUGNに救助される。
この時の経験から無力であること、不要とされることに大きな恐怖を抱くようになる。

救助された後、アカデミアで暮らすことになった彼はがむしゃらに己を鍛えつづけた。
誰にも捨てられない価値を得るために強くならなくては……だが彼の能力は非常に低かった。
ブラックドッグによる肉体と神経の強化、モルフェウスによる武器の最適運動、オルクスによる領域操作。
どれも一般的なオーヴァードの域を出るものではなく、ワーディングに耐性のある武器を振るうのが少しうまいだけの人間。
それでも恐怖から逃れようと自身を顧みない狂気じみた鍛錬の果て、彼は魔剣を手にする。
それはただただ基礎を極めただけの平凡な一撃。
強化された肉体と最適化された武器から繰り出される単純な斬撃。
しかしその一刀に断てぬものなく、光を裂き、闇を払う。
人々は畏怖を込めて彼をこう呼んだ……【魔剣士】と……

「いくぞ！この一刀に賭けて、僕は君を超えて見せる！」